

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670200033		
法人名	社会福祉法人 緑樹会		
事業所名	グループホーム安樹		
所在地	鳴門市大麻町松字東山田57-10		
自己評価作成日	平成22年7月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670200033&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年9月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は自然に囲まれ、四季折々の風景を楽しみながら癒される環境にある。盆踊りや夏祭りを実施し、地域の方に参加してもらい交流の機会を設けている。法人として「地域社会に開かれた信頼される愛される施設」という共通理念をつくっている。事業所独自に「一日一笑」という理念を掲げ、毎日笑顔の絶えないアットホームな雰囲気づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所のユニット間には同一法人の介護老人福祉施設があり、協力体制のもと利用者の支援に努めている。職員は利用者に温かく接しており、事業所の理念にもある“笑”があふれている。共同空間の居間からは、山々の緑や川が見え、室内にも鉢植えが置かれている。利用者は、それぞれの居室に馴染みのものを持ち込んでおり、職員は利用者の生活歴を大切に支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人で共通理念を作っている。また、事業所独自に「利用者様に自由を提供する」「良質な環境を整える」「一日一笑、毎日笑顔の絶えない時間を提供する」という理念を掲げ職員間で共有して実践に繋げている。	職員は毎朝、法人理念と事業所理念、職員心得を唱和し確認し合っている。そのなかで「一日一笑」を重視した介護実践を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日ごろから散歩に出かけて、地域の方と挨拶を交わしたり会話をしている。地元小学校の運動会や集会等に参加している。幼稚園児や小学生の来訪もあり、交流を深めている。	グループホームのユニット間に位置する介護老人福祉施設や同敷地内の医療機関のリハビリテーションに通っており、馴染みの人も関わりを維持している。地元の幼稚園や小中学校の来訪があり、利用者も行事に参加し交流を図っている。毎日の散歩を日課としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報活動を行って、高齢者を抱える家族や高齢者に困ったことがないか呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、他事業所職員、職員が参加し、2か月に1回開催している。事業実施状況や行事報告を行っている。参加者からの要望や提案を十分時間をとって話し合い、サービスの質の向上に繋げている。	2か月に1回、運営推進会議を行っており、参加者は自由な雰囲気の中で話し合いを行っている。市役所からは市担当者や介護相談員の来訪があり、出された意見は運営推進会議で話し合い、サービスの質の向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月2回、市の介護相談員を受け入れている。年2回、市職員を交えて相談結果の報告会を開催するなど、協力関係を築いている。運営推進会議に市担当者の参加を呼びかけ、参加してもらっている。	市役所からの事業所見学もあり、職員は分からないことや相談事などを伺っている。また市役所を訪問し、お互いに顔の見える関係により連携を図っている。市役所による介護相談員制度の導入も良好な関係作りの一助となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で研修会を開催して、身体拘束について学習している。身体拘束を行っている利用者はいない。	理念に「身体拘束はしない」を位置づけ、職員間でも研修課題に取り上げ学習している。	夜勤者がグループホームの各ユニットを移動する間、監視カメラで安否を確認するようにしている。監視カメラによる利用者の心的負担とそれによる弊害等について職員間で協議されたい。利用者の安全を確保しつつ抑圧感の無い自由な暮らしの支援に向けたさらなる検討を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で研修会を開催し、虐待について学習している。また、テレビ等で報道があった場合にはそのつど申し送り等で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で研修会を開催し、権利擁護に関する制度について学習している。全職員が制度の内容を把握できるように努め、相談があった場合に対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に必ず重要事項説明書により説明し、疑問等がないか確認している。疑問点があれば、十分な説明を行い納得してもらってから契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には何でも気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。出された意見等は十分に検討し、運営に反映させている。	家族の来訪時には積極的に話しかけたり、行事等の際には「満足度調査」を行っている。電話による連絡も行っているが、来られない家族等には十分な連絡ができていない。	来訪の困難な家族等にも、利用者の生活を知ってもらい意見を聞くことができるようにアプローチの方法を考慮されたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、職員面接を実施し、意見や提案を聞く機会を設けて運営に反映させている。	会議の連絡や議事録等を整理し、職員が見える場所に設置している。欠席した職員が見ていないこともある。	全職員が把握したという確認も兼ね回覧等にチェック欄を入れるなどの工夫が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表等を活用し、一定レベルにある職員の面接を行って正規職員に採用している。また、自己の目標に対する自己評価を全職員が行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、知識や技術向上のトレーニングを毎月行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県外事業所で現場実習を実施している。現場実習終了後も職員間で連絡を取り合い交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があった場合には本人を訪問し、困っていることや要望を聞いている。また、定期的に声かけを行い、心配ごとなどがないか聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった場合には必ず家族と面会し、不安なことや要望に応じている。また、来訪時に声かけを行い、相談などがないか聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から相談を受けた場合には状態を見極め、必要なサービスにつなげられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除方法などの家事について利用者の経験を活かしたアドバイスをもらうなど、ともに支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめに利用者の状況を報告し、そのつど状況に応じて家族と職員が同じような思いでともに支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の状況や入居後の状態を把握して馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている。	家族等に外出や外泊支援の協力を依頼している。ドライブの途中で自宅の周辺や神社を訪れるなど、馴染みの場所への外出支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している方がいたり、利用者同士の関係が悪くなっているときは、早急にミーティングを行って対応を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のため退居した方のお見舞いに行っている。他の事業所へ移った方も訪問して状態を聞いている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方を本人や家族から聞き取っている。	入居時には本人の意向を十分把握できるように努めている。本人が大切にしていた持ち物を居室に持ち込んだり、位牌を祀られている方には毎朝のお水等を準備している。日ごろの会話においても、生活歴を結び付けて話すような工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時のライフスタイルを聞き、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント表を活用し、利用者の現状を把握している。定期的に、再アセスメントをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から要望や希望を聞き、介護計画を作成している。多職種の職員が集まって会議を行い、介護計画を作成している。	職種間で意見交換を行い、利用者一人ひとりの状態や表情、態度などから希望を汲み取り、自尊心に配慮したさりげない支援ができる計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日2回、個別に記録し、職員間で情報を共有してプランの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ一人ひとりの希望にそって支援ができるように努めている。聞き取りを行い、利用者の趣向に合ったサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの飲食店を利用したりこれまでのかかりつけ医での受診を支援している。地域資源を把握して協働に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人や家族からかかりつけ医や希望する医療機関を聞き、納得の得られた医療機関を継続して受診できるようにしている。また、かかりつけ医には些細なことでも相談や報告をするよう努めている。	入居時に家族の希望を十分に聞いているが、現在のところ同一法人の医療機関を全員が希望している。	利用者の体調の変化に伴い、家族の気持ちも入居前と変わることがあるため、遠慮なく話しあえるよう一層の工夫をされたい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の様子を観察し、変化がある方の状態を常に看護師に報告するようにしている。看護師からかかりつけ医に報告や相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には職員が定期的の様子を見に行き、医師や看護師と話し合っている。早期退院に向け、家族とも話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望や要望、主治医の意見、事業所のできることを十分に話し合い、方針を共有している。	入居時に、家族から終末期治療の希望を聞いている。職員間でも重度化に向けた対応の勉強会を行っている。法人の方針について話し合い、職員間では看取りを含めた介護の必要性について共通認識をもっている。	今後、グループホームでの看取りを希望する利用者が出てくることを想定し、人間的なことも考慮しながら事業所としての方針を検討されたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で研修会を開催し、急変時や事故発生時の対応について学習している。マニュアルを作成し、研修を通して実践できるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、日中や夜間を想定した訓練を行っている。また、消防署や役場等との情報交換を行い連携を図っている。	同一敷地内にある社会福祉法人と医療法人により定期的に訓練を行っている。事業所単独の訓練も行っている。	現状として、夜間の災害時における初期対応を夜勤者1名で行うことになるため、併設の特別養護老人ホームを30m程挟んでグループホームの各ユニットが位置しているという立地条件にも考慮し、法人全体での検討課題とされたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや倫理に関する研修を行い、一人ひとりの人格を尊重した対応を徹底している。職員は利用者に対して、尊厳に配慮したいい言葉かけや対応をしている。	日ごろから利用者一人ひとりの尊厳に配慮した対応を行っている。また、プライバシー等に関する職場内研修を行っており、全職員が受講できるように同一内容の研修を3回実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろの会話から希望や要望を表しやすい雰囲気づくりに努め、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	調理やレクリエーション等に参加したい方やゆっくりと静かに過ごしたい方など利用者一人ひとりの希望やペースにそった過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分で選び、その人らしい身だしなみができるよう支援している。また、整髪についても希望する馴染みの理髪店へ行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや残存能力を活かしながら職員と一緒に準備や後片付けをしている。	職員一人ひとりが工夫を凝らした献立表を作成しており、利用者の好みや食べやすさに配慮した内容となっている。準備や後片付けなどを利用者とともにやっている。利用者一人ひとりの能力に配慮した協働作業となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、摂取量の少ない場合には補助食品を提供するなどの対応をしている。また、咀嚼レベルに応じて食事を工夫している。併設事業所の栄養士からアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。一人ひとりの力に応じた歯磨きの手伝いを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行って利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導などを行っている。トイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを全職員が把握している。職員は「声かけ表」を活用し、さりげない援助で排泄の自立に向け支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護職員や看護職員で話し合い、水分摂取量を増やしたり運動量を増やすなどして下剤や浣腸の使用を控えるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望にそっていつでも入浴できるよう支援している。	少なくとも週2回は入浴できるようにしている。利用者からの希望があれば毎日の入浴も支援している。体調によっては隣接した老人福祉施設の特殊浴も利用できる体制を構築している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を考慮しながら快適な睡眠や休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬品名カードを活用し、全職員が薬の副作用等を確認している。服薬チェック表を作成し、利用者の状態を定期的に主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に利用者の職歴や趣味等を聞き取り、日ごろの生活のなかで役割を担ってもらえるよう配慮している。また、散歩などの外出支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出などの外出を定期的実施している。利用者一人ひとりの希望にそった外出ができるよう家族に協力をお願いしている。	家族の協力も得ながら個人外出を支援している。事業所の外出では、外食や喫茶店等に頻繁に出向いている。年2回の遠足には家族にも参加を呼びかけ、利用者や家族、職員で出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じて、家族の了解を得て本人にお金を所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しながら利用者の意向を尊重し、自由に電話をかけたり手紙を出せるよう心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の体調を考慮して温度調整をしている。また、季節に応じた装飾を行って季節感を感じられるよう配慮している。	冷暖房は利用者の体調に合わせてこまめに温度調節を行っている。窓からは馴染みのある風景が見え、室内には季節感を感じることのできる配慮がいたるところに見受けられる。ベランダには、皆の洗濯物が一緒に干されている。利用者と職員は、洗濯物たたみを行いながら景色を楽しみ、季節を感じられる会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに椅子を設置して、一人で過ごしたり、気の合う利用者同士が会話を楽しめるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品を持ち込み、自宅での生活にできるだけ近い環境となるように家族と相談し、居心地よく過ごせるように工夫している。	入居時には本人の望むものはなるべく持ち込めるような配慮を行っている。仏壇や位牌を祀られている方もいる。居室の飾りつけはなるべく利用者本人の希望に添うように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し、できるだけ自立歩行できるようにしている。また、トイレ等には場所がわかりやすいよう張り紙をして自立した生活が送れるように工夫している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人で共通理念を作っている。また、事業所独自に「利用者様に自由を提供する」「良質な環境を整える」「一日一笑、毎日笑顔の絶えない時間を提供する」という理念を掲げ職員間で共有して実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日ごろから散歩に出かけて、地域の方と挨拶を交わしたり会話をしている。地元小学校の運動会や集会等に参加している。幼稚園児や小学生の来訪もあり、交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報活動を行って、高齢者を抱える家族や高齢者に困ったことがないか呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、他事業所職員、職員が参加し、2か月に1回開催している。事業実施状況や行事報告を行っている。参加者からの要望や提案を十分時間をとって話し合い、サービスの質の向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月2回、市介護相談員を受け入れている。年2回、市職員を交えて相談結果の報告会を開催するなど、協力関係を築いている。運営推進会議に市担当者の参加を呼びかけ、参加してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で研修会を開催して、身体拘束について学習している。身体拘束を行っている利用者はいない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で研修会を開催し、虐待について学習している。また、テレビ等で報道があった場合にはそのつど申し送り等で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で研修会を開催し、権利擁護に関する制度について学習している。全職員が制度の内容を把握できるように努め、相談があった場合に対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に必ず重要事項説明書により説明し、疑問等がないか確認している。疑問点があれば、十分な説明を行い納得してもらってから契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には何でも気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。出された意見等は十分に検討し、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、職員面接を実施し、意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表等を活用し、一定レベルにある職員の面接を行って正規職員に採用している。また、自己の目標に対する自己評価を全職員が行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、知識や技術向上のトレーニングを毎月行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県外事業所で現場実習を実施している。現場実習終了後も職員間で連絡を取り合い交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があった場合には本人を訪問し、困っていることや要望を聞いている。また、定期的に声かけを行い、心配ごとなどがないか聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった場合には必ず家族と面会し、不安なことや要望に応じている。また、来訪時に声かけを行い、相談などがないか聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から相談を受けた場合には状態を見極め、必要なサービスにつなげられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除方法などの家事について利用者の経験を活かしたアドバイスをもらうなど、ともに支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめに利用者の状況を報告し、そのつど状況に応じて家族と職員が同じような思いでともに支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の状況や入居後の状態を把握して馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している方がいたり、利用者同士の関係が悪くなっているときは、早急にミーティングを行って対応を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のため退居した方のお見舞いに行っている。他の事業所へ移った方も訪問して状態を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方を本人や家族から聞き取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時のライフスタイルを聞き、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント表を活用し、利用者の現状を把握している。定期的に、再アセスメントをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から要望や希望を聞き、介護計画を作成している。多職種の職員が集まって会議を行い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日2回、個別に記録し、職員間で情報を共有してプランの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ一人ひとりの希望にそって支援ができるように努めている。聞き取りを行い、利用者の趣向に合ったサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの飲食店を利用したりこれまでのかかりつけ医での受診を支援している。地域資源を把握して協働に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人や家族からかかりつけ医や希望する医療機関を聞き、納得の得られた医療機関を継続して受診できるようにしている。また、かかりつけ医には些細なことでも相談や報告をするよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の様子を観察し、変化がある方の状態を常に看護師に報告するようにしている。看護師からかかりつけ医に報告や相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には職員が定期的の様子を見に行き、医師や看護師と話し合っている。早期退院に向け、家族とも話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望や要望、主治医の意見、事業所のできることを十分に話し合い、方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で研修会を開催し、急変時や事故発生時の対応について学習している。マニュアルを作成し、研修を通して実践できるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、日中や夜間を想定した訓練を行っている。また、消防署や役場等との情報交換を行い連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや倫理に関する研修を行い、一人ひとりの人格を尊重した対応を徹底している。職員は利用者に対して、尊厳に配慮したていねい言葉かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろの会話から希望や要望を表しやすい雰囲気づくりに努め、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	調理やレクリエーション等に参加したい方やゆっくりと静かに過ごしたい方など利用者一人ひとりの希望やペースにそった過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分で選び、その人らしい身だしなみができるよう支援している。また、整髪についても希望する馴染みの理髪店へ行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや残存能力を活かしながら職員と一緒に準備や後片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、摂取量の少ない場合には補助食品を提供するなどの対応をしている。また、咀嚼レベルに応じて食事を工夫している。併設事業所の栄養士からアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。一人ひとりの力に応じた歯磨きの手伝いを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行って利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導などを行っている。トイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護職員や看護職員で話し合い、水分摂取量を増やしたり運動量を増やすなどして下剤や浣腸の使用を控えるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望にそっていつでも入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を考慮しながら快適な睡眠や休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬品名カードを活用し、全職員が薬の副作用等を確認している。服薬チェック表を作成し、利用者の状態を定期的に主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に利用者の職歴や趣味等を聞き取り、日ごろの生活のなかで役割を担ってもらえるよう配慮している。また、散歩などの外出支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食などの外出を定期的実施している。利用者一人ひとりの希望にそった外出ができるよう家族に協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じて、家族の了解を得て本人にお金を所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しながら利用者の意向を尊重し、自由に電話をかけたり手紙を出せるよう心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の体調を考慮して温度調整をしている。また、季節に応じた装飾を行って季節感を感じられるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに椅子を設置して、一人で過ごしたり、気の合う利用者同士が会話を楽しめるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品を持ち込み、自宅での生活にできるだけ近い環境となるように家族と相談し、居心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し、できるだけ自立歩行できるようにしている。また、トイレ等には場所がわかりやすいよう張り紙をして自立した生活が送れるように工夫している。		